

第十四條 本會ノ事務所ハ
×××ニ之レヲ置ク
○常會委員

圓銃後會へ金參拾圓、愛國婦人會へ金貳拾圓を寄附。
△戰死者遺骨到着、名譽の

五男五女 白水 小筑英男
十女 宮 近藤喜作
△十一月三日、金坂運動場

△社會教育主事として、縣下
に其盛名を馳せられた黒田吉
太郎氏は、十一月十五日附
を以て、第二小學校長に就

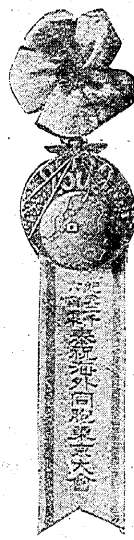
△十一月十六日記念館に於
て、例年の通り敬老會舉行
招待者二三名、入場者一
〇〇〇名の盛會。

内郷村報の 六大使命

- 一、政策推進を期して、村力充実主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し、併せて其發展を計り、進境和進努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事善行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村の村務及本村團體の進歩の進境を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

天法人則
ニ從順ナ
ルベシ



上 下
役 員
加 章

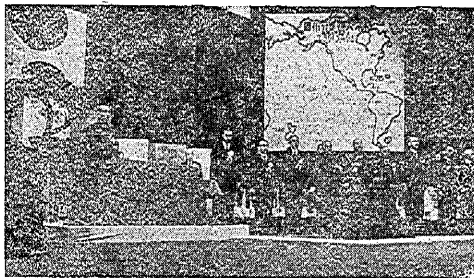
紀元二千奉祝海外東京大會

海外 二一七ヶ國代表千五百人
宮 顯忠府新宿御苑拜觀

大内民惠

一、緒言
明治元年、布哇に海外移住先驅の第一歩を印して以來、こゝに七十余年となり、今や布哇、加奈陀、北米、中南米、南洋、印度、滿洲支那等々、全世界二十七ヶ國にわたる、海外同胞の数は、實に二百五十萬に達して居る。而して此等同胞が、其在住國の産業開發に貢獻することは、身を以て入茲一宇の大精神を顯現しつゝあるものといふべく、之に加ふるに、年々巨額の母國送金をなし、我國際收支の上に、多大の寄與をなすのみならず、今次の奉祝に際しては、我對支聖戰の眞諦を、其在住國民に理解せしむべく、その認識是正運動を、勇敢に努力實行すると共に愛國の至誠を以て、恤兵獻金、慰問品等、巨額の献納に其赤心を示して居ることは、我朝野の等しく感謝する處である。

時しも光輝ある、紀元二千六百年を迎へ、一億の國民は、齊しく神武天皇肇國の大精神を仰ぎ、奉祝大典を舉行せらるゝにあたり、其同胞代表一千五百人を帝都に招き、一堂に會して奉祝の至誠を致し、皇誠の恩澤を、廣く全世界各地の同胞に頒つと共に、國民的感謝を以て、其功勞に報いん爲に、有志相倚り、紀元二千六百年奉祝海外同胞東京大會を組織し、發起人には朝野の諸名士を仰ぎ、各省内閣視典事務局、東京府、東京市、東京商工會議所、日本放送協會等の後援の下に、去る三月より其準備に着手し、愈々十一月四日より同八日迄五日間にわたつて、之が開會せられ、それが終つて九日には、特別の恩召に依つて、宮中顯忠府、新宿御苑の拜觀を差許され、十日には大祝典の奉拜を許されたのであつた。



東久遜宮以下各大臣

予は會つて北米に三年、布哇に八年、居住したる故を以て、其布哇部委員に擧げられ、此大會に参加するの光榮に浴したるのである。以下は其参加記録の大要である。

二、奉祝行進、祝賀式總會
相撲見學、市長招待。
第三、翌午前八時、千名以上の代表は、大會總長山岡萬之助氏以下役員、並に都下大學拓殖科學生等約三千に迎へられて、日比谷公會堂前廣場に參集、大會書類及參加徽章を配付せらる。同九時、大會標

省廳に、秋田拓相以下職員系列して之を迎へ、多年の勞苦を稱はるかくて日比谷に歸還した一行は、都下學生を挨拶をかけた後、奉祝會場たる公會堂に入る。

式場正面には、大日章旗を中心とし、二百五十萬同胞の海外雄飛を物語る、邦人分布世界地圖が、其左右に掲げられ、總裁近衛首相以下、名譽顧問たる各大臣、大會役員等三十余名着席、午前十時半東久遜宮殿下式場御着、全員奉迎裡に壇上正面の御席に着かせられ、司會者總會理事原春次氏開式の辭を述べ、宮城遙拜、國歌奉唱、經原神宮、明治神宮遙拜、皇軍英靈に敬弔、陸海將兵武運長久祈願並に傷病將兵に感謝の默禱、海外先覺物故者に對する感謝の默禱の後、山岡事務總長恭しく、紀元二千六百年紀元節に賜つた詔書を捧讀し、近衛總裁の式辭、松岡外相、東條陸相、及川海相(代理)、秋田拓相、岡田府知事、大久保市長の各祝辭は何れも海外同胞の、奮闘を感謝激勵するものであつた。次いで北米在住の最長老阿部豊次氏は、海外同胞を代表して宣誓文を朗讀し、南米部代表脇山甚作氏の發聲にて萬歳を奉唱、殿下の御退場を奉送して、開會式を終了する。

續いて總會に移り、議長推薦、經過報告、役員の選任あつて、紀元二千六百年奉祝賀表奉呈の件、出征皇軍將兵に對する感謝の件、傷病將兵慰問の件等の議事を決定して正午散會し、一同揃つて場外大テント内の交誼午餐會に臨み、温い故國の歡迎をうけた。夫々代表者の感激談中、松岡外相が、私は十四歳より十年間、北米の移民であつた、世間では往々移民といふが、輕蔑する向があるが、それ

は大な間違で、移民は名譽ある發展の先驅者である云々の一言には、滿場二千人が、破るゝが如き喝采を送つたことであつた。散會後各部代表は、明治神宮及靖國神社參拜、代表者外は、明治神宮奉納、全日本力士選士權大會見物の招待に預る。予は其一行に加はつて、双葉山以下二十有力力士の、龍撰虎搏を見る。優勝は流石に双葉山、第二位は羽黒山、第三位は前田山であつた。

六時からは、上野精養軒に於て大久保市長招待の晩餐會に出席。第一會場は市長、第二會場は橋本第一助役、第三會場は松永市會議長が出席して、歡迎の辭があり、それに對して、夫々其方面の代表者が、謝辭を述べ、談笑の内に歡を盡した。紀念として高雅な「東京」(市行政概覽)の寄贈をうけて九時散會した。

因みに附記して置くが、市の厚意により、參加章佩用者は、會期五日間市内電車は全部無賃、宿泊は大會指定の旅館で、其料金は大會の支出に依つたものであつた。但し予は之を遠慮して、例の當宿たる上野禁酒ホテルにこまつたのであつた。

三、部會 東日社見學
各種會合
第二日、北米部、中南米部、布哇部は日本青年會館。東亞部、南洋部は帝國教育館に於て開會。部會協議事項は十三件十四項目であつた。部會長が其結果を纏めて、第五日の總會に發表することになつた。予は勿論布哇部に出席したのであつた。

芳賀七郎、三保勝一、早川治郎の諸君と、久淵を敘した事は、誠に愉快であつた。

午後四時より東日社を見學、六時三十分より、内閣情報部講堂に於て、特別の恩召に依つて、宮中顯忠府、新宿御苑の拜觀を差許され、十日には大祝典の奉拜を許されたのであつた。

本報發行は内郷一家の事業にして、其の社債は手塚に關する運賃を兼ねるものなり

本報定價 一月五錢 一年五十四錢 半年二十八錢
發行所 内郷村報社
編輯所 内郷村報社
印刷所 平活版所

一面より續く

演會に出席、林情報官、松村陸軍大佐、大熊海軍大佐、伊藤情報部長の、時局柄有益なる講演を聴聞映画「愛の愛情」を観覧、何れも得る處多大であつた。

四、立川飛行場見學

第三日、六日午前十時を期して京濱其他に散宿せる、一千五百名の代表は、航空本部川島大佐、西原少佐の案内で立川着、立川飛行場を見學し、陸の荒鷲から空の響應をうけた。

五、横須賀軍港見學

第四日、七日は生憎雨天であつた。予は第一班に加はつて、午前七時一行と共に東京駅を出發、八時三十分横須賀に着き、出迎へてくれた弟の泰治から洋傘を借り海軍の自動車で三笠艦に至る。先休憩所に於て、當年乗組信託兵として、竿上高く有名な信託旗を掲揚した。三笠保存會副官大河原

六、總會閉會式歌舞伎座觀劇追用法

第五日、祖國に相會し、世界の嵐の中に、揺ぎない頼もしいその威容に、感激を深めた我東京大會は、八日九時三十分から、歌舞伎座に總會閉會式を開催、五日間に亘る意義ある大會の幕を閉じた。頭山滿翁をはじめ來賓會員二千五百余名出席のうちに總會を開き、宮城遙拜、國歌奉唱、黙禱後、山岡事務局長議長より、布哇、北

七、宮中顯忠府並新宿御苑拜觀

第六日、大會を終へた翌日、我等參會者は、特別の恩召を以て、宮中顯忠府(十五歳以下を除く)と新宿御苑(全員)との拜觀を許され、一同其光榮に感激した。九日午前九時、坂下門より參入宮内省前にて班列を定め、東御車寄前に整列して、各代表表參殿賀表を捧呈し、それより御車寄を右

八、式典の列外參列

第七日、昨日九日、無上の光榮に浴した、我々代表中七百五十余名は、又更に今日十日、聖紀の式典に列外參列の恩命を拜し、午前八時三十分、警視廳特警隊空地に集合、村上警部以下二十名の警官に附添はれ、馬場先門入口に於て特別奉拜を許され、數々の榮譽に一同感激の涙を流し、何れも感戴であつた。

九、正倉院御物拜觀

第八日、十一月五日より、二十日間にわたり、國體の精華を如實に示す邦家の至寶、正倉院の御物を、此際の際に、東京帝室博物館に陳列して、一般に拜觀を差許さるゝことを知つた予は、又さなき好機を逸しては、十一月早朝會場に馳せ参したるに、既に蜿蜒長蛇！九時の開館を待つ光景にさもありなしと、其列後に次いで入場した。第一室より第六室にたり、武器、文房具、文書、調度品、繪畫、衣服、染織、佛具等々百四十四點、何れも天平の夢を秘めて、千二百年の昔に、花を咲かせた古代日本文化を偲はせる、驚世品ばかりであつて、たゞ、驚嘆噴するより外はなかつた。

大政我村の常會結成

我村に於ては、愈々十一月二十六日を以て、常會を結成す。國策並政策ヲ凡ク悉敬

教育制度改革概論

行き詰る現代の教育制度を解して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提擧す。天下知名の士の賛同鼓舞に違あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

日本評論社

發行所 日本評論社 東京東區三丁目 東京新聞社

職權ヲ代理ス

第十二條 顧問(又ハ參與)ハ常會ニ出席シ會務ニ參劃スルモノトス

第四條 部落ノ下ニ隣保班

第三條 本會ハ萬民翼賛ノ實ヲ擧グル爲メ左ノ事項ヲ達成スルヲ以テの目トス

第一、隣保團結ノ精神ニ基キ

米、南洋、中南米、東亞各代表の部會報告があつた後、

少佐から、數々武勳を建てた艦の戦歴、其を物語る艦内各部の記念個體及記念物品等々について、詳細切なる説明を承り、今更ながら血湧き肉躍るの感にうたれつ艦内限なく觀覽、終つて海軍から廻された、小汽船に分乗入港中の大小軍艦を展望しつ、追濱に見學は出来なかつたが、航空隊の全貌を巡覽して、全員食堂に案内せられ、長官塩澤大將より、歓迎並激勵の辭、それに對する我等代表の答辭があつて、之亦海軍式書翰をいただいた。數々のお土産品を頂戴、特に軍の自動車で追濱驛迄送られ、薄暮歸京したのであつた。

代表の一行中には、我福島縣人も相當の數にのほつて居つたので在東京力行會の鈴木七郎君が協力して、布哇の芳賀七郎、北米の手代木平吾、遠藤齊喜、南米の安瀬盛次、南洋の佐久間悠太郎の諸君の賛同を得、共に其發起人となつて此日午後六時から、銀座オリビエビルで、出席者十五名に達し、予は縣海外協會を代表して、會の現状、將來の方針等に就いて、報告をかけた後、鈴木君が本會開催の經過報告をなし、出席者一同感戴を述べ、福島に於ける再會を期し、記念撮影を行ひ十分に歡を盡して和氣霽々裡に散會した。

米、南洋、中南米、東亞各代表の部會報告があつた後、一、海外同胞中央機關設置二、海外發展功勞者感謝三、同各種報章機關感謝四、同各種報章機關感謝等を滿場一致可決し、第一案は實行委員五十名を充て、具體的實行方法を決定することとなり、閉會式に移り、議長から布哇外四部の功勞者五百名に感謝狀を授與。此時頭山翁は立つて、最年長者の塚本翁、最長期在住者南翁は、無言の感謝をこめて堅き握手をかし、續いて吉田囑託の指揮で、西條氏新作「海外同胞奉祝歌」を全員で合唱、大政翼賛會を代表して顧問丸山鶴吉氏、朝日社を代表して緒方主筆が夫々挨拶を述べ、最後に在シヤトル四十八年の奥田平次氏の發聲で、聖壽萬歳を三唱して、茲に芽出度く豪華なる大會を閉じた。

午後は松竹の招待で、書齋の接待、觀劇會の場面は、左衛門、時「敵國降伏」に、羽生衛門、菊五郎等名優の至鑿に、隨喜感嘆更に四時より、築地本願寺の海外物故者追用法會に參列した。望月小太郎翁の代表焼肴、胎中楠右衛門氏の海外發展先覺者慰靈碑建設計畫の經過報告等があつた。午後六時から、丸山九二食堂のシヤトル會に出席、關係諸名士在米當時の友人諸君と、卓をかねて大に歡談するところであつた。出席者無慮三百余名の盛會であつた。

した代表は、空前にして絶後とも思はる、再會を期して、全く解散することとなつたのである。

十、結語

愈々豫定の行動を終へて、歸宅したのは其日の晩であつた。先づ數々の御下賜品を、神棚と佛壇に供へ、家内一同を集めて、過去九日間の一切を物語り、大會陸海軍其他からの土産品を分與し同時に一同を二班にわけ、會期中に上京して、正倉院御物、式典式場を拜觀すべき事を命じ、此一文を草して、子々孫々へ傳へる事共に、我五千の讀者にも讀んで頂く事としたのである。

大政 翼贊 我村の常會結成

教育制度改革概論

矢野 恒太郎 大内民惠著

我が村に於ては愈々十一月二十六日を以て、常會を結成して、國策に添ふ事となつた。其規程陣容は左の通りである。

我村の常會結成

我村に於ては愈々十一月二十六日を以て、常會を結成して、國策に添ふ事となつた。其規程陣容は左の通りである。

常會規程

第一條 本村ニ内郷村常會ヲ(以下本會ト稱ス)設置ス
第二條 本會ハ會長一人常會委員(以下委員ト稱ス)三名以内ヲ以テ之ヲ組織ス
第三條 會長ハ村長ヲ以テ之ニ充ツ
委員ハ部落會長並ニ左ニ掲クル者ノ中ニ付村長之ヲ選任ス但シ村會議員ヨリ選任スル委員ノ數ハ議員定數ノ三分ノ一以内トス
村會議員、農會、産業組合、商業組合、青年團、警防團、在郷軍人會、婦人團體等、學校長、學識經驗者
第四條 本會ニ顧問(又ハ參與)ヲ置クコトヲ得顧問(又ハ參與)ハ本村ニ居住スル官公吏等ニ付本人ノ意見ヲ徵シ會長之ヲ推薦ス
第五條 本會ハ左ノ事項ヲ達成スルヲ以テ目的トス
一、萬民翼贊ノ本旨ニ則リ地方共同ノ任務ヲ遂行スルコト
二、國民ノ道德的鍊成ト精

行く詰れる現代の教育制度を解體して、學理を實際に、歴史を實際から新に大内案九主義を提擧す。天下知名の士の賛同枚舉に遠あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我が國教育學界の權威 前京大總長小西重直博士 書を寄せて曰く、多年の御體験下實地ノ御試練ニ基キ眞摯愛國ノ大精神ヲ拜味仕り不勝感激ニ打テ申儀云々。

發行所 日本評論社 東京橋本三丁目 東京所 内郷村報社

職權ヲ代理ス
第十二條 顧問(又ハ參與)ハ常會ニ出席シ會務ニ參與スルモノトス
第十三條 本會ニ幹事二名ヲ置キ會長之ヲ選任ス
幹事ハ會長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ整理ス
第十四條 本會ニ書記二名ヲ置キ會長之ヲ選任ス
書記ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第十五條 本會ニ左ノ帳簿ヲ備付ケ必要ナル事項ヲ記録ス
役員及委員名簿 常會記録 其他必要ナル帳簿
第十六條 本會ハ特ニ必要ナル事項ヲ審議スル爲メ部制ヲ設クルコトヲ得
部ニ部長一名及部員九名ヲ置キ委員中ヨリ會長之ヲ指名ス
附則 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 部落ノ下ニ隣保班ヲ置ク隣保班ハ村長ノ定ムル區域内全戸ヲ以テ之ヲ組織ス
第五條 隣保班ヲ置ク隣保班ハ村長ノ定ムル區域内全戸ヲ以テ之ヲ組織ス
附則 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

各部部落會區域
白水第一 高倉以下三字
白水第二 廣畑以下七字
宮第一 峰根以下八字
宮第二 宮澤以下三字
内町 内町一圓
綴上 綴上一圓
綴下 綴下一圓
高坂 高坂一圓
御厩 御厩一圓
御台 御台境一圓
小島 小島一圓
警炭峯平 峯平社宅
同 町竹 町竹社宅
同 宮澤 宮澤社宅
同 御殿一 御殿社宅
同 濱井場 濱井場社宅
同 濱井場 濱井場社宅
同 秋白内 秋白内社宅

部落會設置規程
第一條 隣保團結ノ精神ニ基キ村民ヲ組織結合シ萬民翼贊ノ實ヲ舉グル爲メ本村ヲ劃シ部落會ヲ設置ス
部落會ノ區域ハ別表ノ定ムル所ニ依ル
第二條 部落會ハ區域内ノ全戸ヲ以テ之ヲ組織ス
第三條 部落會ニ會長一人ヲ置キ村長之ヲ選任ス

部落會規約
第一條 本會ハ××部落會ト稱ス
第二條 本會ハ内郷村部落會設置規則別表地區内全戸ヲ以テ之ヲ組織ス

第七條 定例常會ハ毎月十五日之ヲ開催ス但シ必要ニ應ジ臨時常會ヲ開催スルコトヲ得
第八條 常會ハ午前九時ニ開催ス但シ臨時ニ開催スル常會ノ招集並ニ開會ノ時間ハ其都度會長之ヲ定ム
第九條 本村内ニアル各種委員會ハ已ムヲ得サルモノノ外總テ本會ニ統合スルモノトス
第十條 委員事故ニ依ル常會ニ出席シ得サルトキハ事由ヲ具シ豫メ會長ニ届ケ出ツルコトヲ要ス
第十一條 會長ハ會務ヲ總理シ常會ヲ司會ス會長事故アリトキハ村長ノ代理者其

第六條 常會ハ概ネ二時間ヲ標準トシ開會ノ時刻ハ會長之ヲ定ム
第七條 常會ハ區域内各戸一人以上出席スルモノトス但シ己ムヲ得サル事故ニ依リ出席シ得ザル者ハ豫メ會長ニ届出ツルモノトス

第三條 本會ハ萬民翼贊ノ實ヲ舉グル爲メ左ノ事項ヲ達成スルヲ以テ目的トス
一、隣保團結ノ精神ニ基キ區域内全住民ヲ組織結合シ萬民翼贊ノ本旨ニ則リ地方共同ノ任務ヲ遂行スルコト
二、國民ノ道德的鍊成ト精神の團結ヲ圖ルコト
三、國策並政策ヲ汎ク透徹シ國政及地方自治政萬般ノ圓滑ナル運行ニ協力スル事
四、國民經濟生活ノ地域的統制單位トシテ統制經濟ノ運用ト國民生活ノ安定上必要ナル機能ヲ發揮スルニ努ムルコト
第四條 本會ハ前條ノ目的ヲ達成スル爲メ常會ヲ開催シ物心兩面ニ亘リ社會生活ノ各般ノ事項ヲ協議シ之ヲ各自ノ日常生活ニ具現スルニ努ムルモノトス
第五條 常會ハ毎月××日ニ之ヲ開催ス但シ必要ニ應ジ臨時常會ヲ開催スルコトヲ得
第六條 常會ハ概ネ二時間ヲ標準トシ開會ノ時刻ハ會長之ヲ定ム
第七條 常會ハ區域内各戸一人以上出席スルモノトス但シ己ムヲ得サル事故ニ依リ出席シ得ザル者ハ豫メ會長ニ届出ツルモノトス

内郷村報

六大使命

- 一、政務行政を推進して、村力充実主義を標榜す。
- 二、村内外各團體の活動状況を報導し、併せて其發展を計り、進取和進歩の實現を期す。
- 三、本村社会事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事興行を奨励し、且之を奨励す。
- 五、本村と本村協同者及本村関係者の聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

三面より續く
第八條 本會ハ必要ニ應ジ第五條ニ定ムルモノ、外婦人常會青年常會等ヲ開催スルコトアルベシ
前項ノ常會ハ隨時必要ニ應ジ會長之レヲ招集ス
第九條 常會ハ部落會長之レヲ司會ス會長故障アルトキハ會長ノ指名シタル者之レヲ代理ス
第十條 本會區域内ノ各種會合ハ已ムヲ得ザル場合ノ外總テ本常會ニ統合ス
第十一條 本會ハ其活動上必要アル場合ハ部制ヲ設クルコトヲ得 部ニハ部長一名及部員××名ヲ置キ會員中ヨリ會長之レヲ指名ス
第十二條 本會ニ左ノ係ヲ置ク
庶務係 會計係 係ニ主任ヲ置キ會長之ヲ委嘱ス 庶務係ハ會長ノ命ヲ受ケ庶務一切ノ事務ニ從事ス 會計係ハ會長ノ命ヲ承ケ會計一切ノ事務ニ從事ス
第十三條 本會ニ左ノ帳簿ヲ備付ケ必要ナル事項ヲ記録ス
會員名簿 常會出席簿 常會記録 金銭出納簿 備品台帳 其他必要ナル帳簿
第十四條 本會ノ事務所ハ×××ニ之レヲ置ク

△絶大の榮譽、磐炭親和會世話役住吉坑所屬渡邊勝治氏は、常磐炭礦全従業員代表として、十一月十日の紀元二千六百年奉祝式典に列席の光榮に浴し、感慨無量恐懼感激して歸山した。

△特志寄附、濱崎善三郎田寺茂實兩氏より、本村統後奉公會並本村愛國婦人會へ金貳拾圓宛寄附。

△在支某部隊鈴木光雄氏より愛國婦人會へ金參圓、銃後會へ金貳圓を寄附。

△村議鈴木留次郎氏死去につき、嗣子貞男氏亡父の遺志により、第二校へ金壹百圓銃後會へ金參拾圓、愛國婦人會へ金貳拾圓を寄附。

△戦死者遺骨到着、名譽の

記事抄録

- | | |
|--------|--------|
| 若松 利重 | 島田 兼吉 |
| 馬目 太平 | 金澤 慶一 |
| 野木 力 | 佐藤 三平 |
| 大越 貞治 | 高萩 忠太郎 |
| 久野 藤二 | 山崎 米太郎 |
| 遠藤 萬四郎 | 網掛 豊作 |
| 草野 庄太郎 | 山下 喜代治 |
| 上原 四郎 | 山崎 庫太郎 |
| 大内 民恵 | 山口 淳三 |
| 鈴木 平太 | 小田 多嘉 |
| 須藤 徳之助 | 山崎 辰亥 |
| 松本 信市 | 志賀 保治 |
| 高木 信吉 | 武藤 義造 |
| 荒木 文司 | 沼田 貞勝 |
| 長澤 文司 | 沼田 貞勝 |

◎常會幹事
島田 兼吉 田口 淳三
◎常會書記
吉田 仙治 鈴木 好定

◎部落會長(前掲區域順)
大越 貞次郎 小松 多嘉
鈴木 平太 高萩 忠太郎
久野 藤二 金澤 慶一
山崎 米太郎 遠藤 萬四郎
網掛 豊作 草野 庄太郎
山下 喜代治 須藤 徳之助
山崎 辰亥 松本 信市
志賀 保治 高木 信吉
武藤 義造 荒木 文司

戦死を遂げたる、御厩出身故郷重兵上等兵太田徳藏君の遺骨は、十一月二日平驛に、同白水出身陸軍曹長青木寅夫君の遺骨は、同月五日驛驛に到着、何れも各遺族各代表等多數驛頭に之を授受す。

△第二小學校長遠藤廣茂氏十月三十日依願退職。

△多數の子女を育成し國本の培養に資する所から、この故を以て、明治の佳節にあたり、金光厚生大臣より表彰せられた人々は左の通りである。

四男八女 高坂 矢部ヤス
五男五女 白水 小筑英男
十女 宮 近藤喜作

△十一月三日、金坂運動場

に於て、磐炭健保組合主催で、奉祝第九回大運動會を開催、社長代理倉田重役及齋藤經理部長も特に來場、盛大を極む。

△十一月五日より五日間、淺野記念館に於て、勤勞者教育中央會主催、補導學級講習會開催。

△十一月九日、先代社長の祥月命日につき、記念館及各坑係事務所禮拜所に於て追悼會を舉行。午前七時より約二十分間、濱崎所長は會議室より、電話により擴声器を通じて、各坑各課職員に對して其挨拶をかねて此日一日主義を放送す。餘白なきを以て内容掲載割愛す。

△十一月十日、各山神社に於て、二千六百年奉祝式を舉行。記念館に於て、契約満期半島人二九名の表彰式を舉行、トランク一個宛を授與す。

△十一月十七日午前九時より十一時迄、記念館に於て小坂取締役、渡邊監査役の講演あり、役付鐵夫及職員約百五十名參聽。

△願成寺再建認可、十六日十七日の兩日、白水警防團全員五十二名、これが材料運搬の奉仕作業をなす。

△社會教育主事として、縣下に其盛名を馳せられた黒田吉太郎氏は、十一月十五日附を以て、第二小學校長に就任、大に期待せらる。

△十一月十七日、内郷座に於て、歸還勇士歡迎會を開催、種々の餘興もあつて盛大を極む。

△同日磐炭の小坂渡邊の兩重役が來山したるを以て、山許にては職員並に中堅勤勞者親和會役付其他計約二三〇名が、之を淺野記念館に迎へ、濱崎所長の紹介後兩氏より二時間に亘つて、會社現狀並に時局に關する講演があつて、一同大に啓發せらるゝところあつた。

△十一月九日左記十一名は仙台地方鑛業報國聯合會長より、表彰の榮譽に浴した「功勞賞」渡邊勝治、桑田榮作。「精勤彰狀」瓜田吉郎、本田徳雄、大金吉三郎、石山貞、木田美文。「精勤褒章」本田繁三、小貫忠吉、菅原倉松、大和田將行。

△十一月五日より五日間、淺野記念館に於て、縣學務部主催の勤勞者補導學級講習會を開催、講師は松田主事補、佐々木主事、高山中佐、矢部主事補、上原課長受講者は親和會世話役、青年會幹部等四三名、何れも受講證書を授與せらる。

△十一月十日より一週間、磐炭に於て体力章檢定執行

△十一月十六日記念館に於て、例年の通り敬老會舉行招待者二二三名、入場者一〇〇〇名の盛會。

本報發行は内郷一家の事業にして、其の社務は手塚に關する諸君を兼顧するもなり

本報定價 一月五元 一年五十元 半年二十五元
發行所 内郷村報社
印刷所 大内民惠